

令和7年度第1回  
昭島市総合教育会議議事録

昭 島 市



- 1 開催日 令和7年12月11日
- 2 場 所 昭島市役所 3階 庁議室
- 3 出席者 白井伸介市長、山下秀男教育長、眞如むつ子教育委員、氏井初枝教育委員、松本芳之教育委員、花田茂教育委員
- 4 開 会 午後4時00分
- 5 閉 会 午後5時00分
- 6 大 要

○白井市長 令和7年度第1回総合教育会議の開催にあたり、お忙しい中お集まりいただき、皆様には感謝申し上げます。

現在、教育を取り巻く環境は非常に厳しい状況にあり、様々な議論が行われています。本来、市長は公教育に政治的な関与を避けるべきという風潮があり、これまで総合教育会議は設けられていませんでした。しかし、大津市でいじめの問題が起きた際に、教育に対する市長の関与が求められ、各市で総合教育会議が設置されるようになりました。

現在の昭島市の人口は116,012人で、前年に比べて増加しています。昭島駅前には481戸のマンションが完成し、3月末にはさらに277戸のマンションが竣工予定です。また、市内西側には233戸のマンションが建設中で、スリーポンドさんの跡地にもマンションが計画されています。東中神地区にも戸建てがという状況で、今後、人口は増加し、確実な数字ではないものの、市の人口が12万人に達する可能性があります。新たに転入される方々にとって、自分の地区の学校の人数が増えていくことは大きな関心事であり、様々な問題を考慮する必要があります。

また、プールに関する話題ですが、校長先生をはじめとする先生方が、真っ黒に日焼けして水泳指導を行い、大変な努力をされています。夏の水泳の授業は、気温が上昇する中で、3、4時間目以降はWBGTが基準値を超え、授業そのものが厳しくなる中、今年度は、市内のスイミングスクールのプールを利用して4校が水泳の授業を行い、来年には、さらに1校増える予定です。

総合スポーツセンターの修繕は、4月いっぱいにかかる見通しで、新たな室内プールの設置が喫緊の課題であります。市議会からの要請も受けており、室内プールの設置を進める方針です。

12月1日には、イーストテラス・サブスリーが完成し、先日、内覧会も行われました。子どもたちの遊び場や、図書館の分館も設置され、子どもたちや地域の方の居場所となっています。今週は、南文化公園のオープニングがあり、つつじが丘小学校の子どもたちが参加して遊ぶ予定です。地域の方の意見を反映してボール遊びができる公園として新たに整備する、総工費4億8,000万円の新畑公園も着工しました。さらに、新幹線0系車両の整備も、クラウドファンディングの2,000万円に6,000万円を加えて、公園内の東屋とトイレの改修と合わせて工事が始まっていて、これが終われば、子どもたちに使ってもらいたいと考えております。

今後も、子どもたちが学びやすく、快適に過ごすことができる環境のあるまちづくりを、皆様からの意見をいただきながら進めていきたいと思っております。

本日は、「地域とともにある学校づくり」、そして、「学校を核とした地域づくり」を進めるための仕組みである、「コミュニティ・スクールの推進に向けて」、教育委員の皆様と協議を行いたいと思っております。また、『「学校の働き方改革の推進に向けた実行プログラム」の策定に向けて』も、話し合いを進めてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、議事に入る前に、昭島市総合教育会議運営要綱第3条第3項に基づき、本日の議事録への署名は眞如教育委員にお願いしたいと思います。

続いて議題に移りますが、事務局から配布資料について確認を行いたいと思っております。

○企画政策課長 本日の資料の確認でございます。まず、本日の日程です。次に資料1としまして、「コミュニティ・スクールの推進に向けて」、その参考資料として、地域学校協働活動（本部）に関する資料、資料2といたしまして、『「学校の働き方改革の推進に向けた実行プログラム」の策定に向けて』になります。過不足等はありませんでしょうか。

○白井市長 よろしいですか。それでは、議題の「コミュニティ・スクールの推進に向けて」、ご協議いただきたいと思います。担当より説明をお願いします。

○学校教育部長 学校におきましては、これまで多くの保護者の皆様と、地域の皆様に支えられ、時代の変化や、様々な課題に対応してまいりました。一方で、近年、ライフスタイルや価値観の多様化等を背景とし、地域活動の担い手不足など、地域連携に課題が生じている状況にもございます。

こうした中、コミュニティ・スクールにつきましては、学校と地域の関係性をより明確にするため、従来の学校経営のアドバイザー的存在であった「学校評議

委員会制」を、地域の皆様が学校経営に直接参画する「学校運営協議会制」に発展させ、「地域とともにある学校づくり」、そして、「学校を核とした地域づくり」を目指すとした仕組みであります。

はじめに項番1のコミュニティ・スクールの現状についてであります。地域と連携・協働しながら学校運営に取り組むとともに、地域と学校が課題を共有し、「地域とともにある学校づくり」を目指し、令和5年度に武蔵野小学校、つつじが丘小学校、瑞雲中学校の3校を皮切りに、令和6年度及び7年度に記載のとおり8校ずつ、順次設置をいたし、全ての小中学校において、コミュニティ・スクールの設置が済んだところであります。

項番2の主な役割につきましては、記載の3点となっており、教育課程の編成など、学校運営の基本方針の承認、また、学校運営の改善などに向け、校長や教育委員会に対し意見を述べる事が可能となっております。

次に、次ページの期待される効果といたしましては、学校・家庭・地域が連携し、共通目標に向けた取組を通じて、学校運営の改善・充実に繋がることや、地域住民等の理解や協力を得る中で、風通しのよい学校運営に繋がること等が、期待されるところであります。

次に、項番4の取組事例といたしましては、地域課題解決型学習や郷土学習、学校に対する協力活動、地域未来塾の開催等が展開されております。市内の学校における具体的な取組事例といたしましては、例えば、中神小学校における生活科・総合的な学習の時間を中心に納涼盆踊り大会などの、地域を学びの場とした地域課題解決型学習、清泉中学校における2年生の職場体験活動（事業所紹介）や1年生の「働く」を考える授業など、キャリア教育における講師紹介や協力活動、そして、土曜日・放課後補習などの学習支援活動については、多くの学校で実施しております。

また、現在取組を推進しております、学校部活動の地域連携における柱の一つであります「部活動指導員等の配置」につきましては、専門性を有する外部人材を積極的に活用するなど、学校と地域の双方にとって効果的な取組が実施されております。

次に、項番5の今後の展開についてであります。コミュニティ・スクールの役割は、今後、重要度が増していくものと捉えており、これまで学校と地域が築き上げてきた連携・協働を基本に、特色ある取組や地域資源を活用した教育活動を展開するなど、これを「地域学校協働活動」として教育課程に位置付け、子どもたちの学びと、地域活動の双方に資する取組に繋げてまいりたいと考えております。

このため、次年度以降、連携・調整等の役割を担う「地域コーディネーター」を各学校に順次配置し、連携・協働体制の充実強化に努めてまいりたいと考えて

おります。なお、参考資料といたしまして、「地域学校協働活動」のイメージ図等を添付しておりますので、併せましてご参考としていただければと思います。

説明は以上となりますが、先ほど申し上げましたとおり、今年度で全小中学校にコミュニティ・スクールが設置されたことから、本日の会議における様々なご意見等を踏まえ、地域とともにある学校づくり、そして学校を核とした地域づくりを目指し、しっかりと取組を推進してまいりたいと存じますので、よろしくお願いいたします。

○白井市長 ありがとうございます。ただいまの説明についてご不明な点がございましたら、ご発言をお願いしたいと思います。せっかくですから、右回りに花田委員からどうぞ。

○花田委員 新参者の花田でございます。よろしくお願いいたします。

私は、国分寺市でコミュニティ・スクール委員を2校でやっております。国分寺市も、今年度、全校でコミュニティ・スクールを発足いたしまして、なかなか苦勞しているところであります。小学校と中学校両方に関わっていますが、地域との関係でいろいろな教育活動を進めている小学校は、結構円滑に移行できているなという感じがしますが、中学校は苦勞しているというのが実感です。

やはり、核になるコーディネーターの方がどんな人かというあたりが相当話題になっていまして、昭島市の実態を正確には存じ上げていませんが、ある方を中心にうまくいっているところは、その方が核になってやっていただけると。ところが、まだ、コーディネーターの指名がされていないようなところもあって、これからだなというのが現状です。ですから、今年度全校で、昭島においてもコミュニティ・スクールに移行したということです。そこのところがまず一つ大きな課題かなと思っております。現状、どんな感じかというところを、わかっている範囲で教えていただければと思います。

それからもう一つは、コミュニティ・スクールは、結構権限が大きくて、いろいろなことができますが、実はこれがなかなか学校の方もそうですし、地域の方にもきちんと周知されていないという実態があって、こんな権限があるというのが、わかっていません。だから、そこのところをきちんと、学校も地域もお互いに理解し合うということが大事かなと、委員として参加して感じております。以上2点です。

○白井市長 では、答弁を求めます。

○学校教育部長 今ご質問いただいた点でございますけれども、まさに本市においても同様な課

題があるというふうに思っています。コーディネーター的な役割の方のお話が一点目ございましたけれども、市内の各学校において、やはり取組状況に濃淡がございますので、中心となる方が一生懸命頑張ってくださいと取り組んでいる学校もあれば、もう少し取組が必要な部分というのは、先ほど花田委員からお話があったような状況が、本市も同様かなというふうには受けとめているところでございます。

また、権限の部分でございます。まさに、このコミュニティ・スクールの役割を、関係者がしっかり理解をしていただくということがすごく大事だと、我々も思っています。今後そのあたりをしっかりと教育委員会としても発信をしていながら、この役割を皆さんにご理解をいただいた上で、取組を推進していきたいというふうに感じているところでございます。

○白井市長 続いて松本先生、どうですか。

○松本委員 コミュニティ・スクールについて第一に考えるべき点は、これを導入することによって、教員の負担が増えていくというようなことはないようにする。つまり、教員の負担軽減に繋がるのはいいのですが、これを入れることによって、例えば余計な事務処理とか、そういうものが増えていくような形は避ける。これが原則だと思います。あくまでも、地域の参加によって、教職員の業務を円滑化する、あるいは軽減する。これが一つです。

それから次に、これはもう以前に私が最初に委員になったときにも委員会の席上で話しをしたことですが、特にこういう形になっていたときには、ボランティアの人たちとの関わりというのが重要なので、その人たちのやった後の意見とか課題とか、彼らがどうそれを評価しているのかというふうなところを、きちんと吸い上げていかないと私は駄目だと思います。

特に授業の支援員は、面倒な子どもを押し付けられて、まあだから入るわけですが、それをどうするのか、それでどういうふうになっているのかということについて、何も言う機会がないというふうに言っています。

それから近年、お母さんたちは共稼ぎが普通になってきていますので、なかなかボランティアに参加する人が少なく、その中でどういう課題があるのかというところも含めて、そういうような点での、実際にやっている人たちの評価、意見、見解、不満というか、そういうものをきちんと吸い上げる仕組みがないと私は思います。

実際に、この計画の中でもそういうものが出てきたという話を聞きませんが、やっていけば必ず何か評価がある。それをきちんと明らかにしていくと。どういうことをここで考えて、どういう評価をしているのか。実際に活躍している人た

ちの判断、これが大切になるので、そこを何らかの機会に吸い上げていく必要はあると思います。

それから、この「2. 学校運営協議会の主な役割」の(3)に、教員の任用に関する意見を言えるということが出ていまして、去年、校長先生との意見交換でどうすればいいんでしょうねっていう話が出ました。私は、言わなければいいのではないですかと。承認を求める必要はないと思います。意見が出たら答える必要があるけれども、こちらからお伺いを立てていくような話ではないと思いますよ、パスできればパスした方がいいのではないですか。そういうふうに答えました。私が校長先生にそういうふうに申し上げましたが、これで良かったのかどうか、一応自信がないので、ここで確認をしていきたいと思いました。以上3点です。

○白井市長 では指導担当部長。

○指導担当部長 初めに、教員の負担がないように取り組んでいくということについてですが、これにつきましては、その後の働き方改革に関する報告事項に繋がるところではありますが、来年度4月以降、学校運営協議会において、校長が学校の働き方改革の方針も盛り込んだ学校経営方針を、必ず承認を受けるようにということになっております。そういった中で、保護者や地域の方にも理解・協力が得られるような形で進められていくものというふうに考えてございます。

次に、ボランティアの意見や課題を吸い上げていくことが重要ではないかということについてであります。これにつきましては、学校運営協議会の委員の方に、学校評価を学校関係者として実施していただいております。地域・保護者の代表であるその委員の方に、そういった学校評価をしていただいているということもありますので、そういった点からも地域の方、ボランティアの方の意見など反映されてくるところもあると考えております。また、直接ボランティアから声を聞いている学校もあることは、認識しているところです。

最後に、教員の任用についてでございます。松本委員がおっしゃられたように、意見がある場合には聞いていくということが大事かと思っております。以上です。

○白井市長 ありがとうございます。いずれにしても、教職員の負担、それでまた、その負担が教育委員会の負担になってくるような形で、オール負担にならないように、地域の教育力を高めていくことが、肝要かなというふうに感じます。今後、そのように取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしく願います。

氏井委員、どうぞ。

○氏井委員 資料の(4)の取組事例の中で特に地域に根づいているなど感じているものが二つございます。一つは、防災訓練の実施ということです。令和5年に、最初のコミュニティ・スクールになるという話が出たときにも私の意見を申し上げましたが、それに先立って、テレビでつつじが丘団地の防災訓練の際に、瑞雲中の生徒がすごく関わりを持っているというのを見まして、そういう地域性のあるところから、このコミュニティ・スクールの第一歩が昭島で始まるというのは、私はすごく素晴らしいことだと思うという意見を申し上げたことがございます。

自分自身が総合防災訓練で瑞雲中に伺ったときに、中学生がビブスをつけて舞台上で一生懸命いろいろやっている姿を間近に見ても、本当に根づいているなということを実感いたしました。そしてさらにまた、テレビで瑞雲中の生徒さんたちの関わりを見ても、これは本当に長く続いてしっかり根づいているなという思いを強くしたところでございます。

あと登下校の見守りということで、特に私は登校の時間に見かけることが多いのですが、割とご高齢の男性が多いように見受けられますが、ビブスをつけて子どもたちのことをしっかり見守ってくださっている姿を何回もお見かけしていて、すごくありがたいことだと感じております。

次に、これは私事で直接は関係ないかもしれませんが、地域の中にある学校ということで、小学校と中学校の連携について、自分の経験したことを二つお話しさせていただきたいと思います。

私がまだずっと若いとき、教務主任の仕事を拝命したときに、前任の方が手書きでいろいろな資料を作っていました。ちょうどその頃は、パソコンの出始めの頃で、自分の勤務校にもそんなに堪能な方がいない状況でした。自分がどこかに習いに行くというのも時間的になかなか難しい。ふと思いついたのが、昭島で言いますと、つつじが丘小学校と瑞雲中学校のように敷地が続いているような小学校に私は勤務していたのですが、お隣の中学校の技術家庭科の先生に教えていただこうと、全く面識のない方でしたが、そう思い立ちまして、技術家庭科の先生に時間の調整をしていただいて、私が中学校に出向いたり、またこちらにいらしていただいたりしながら、エクセルのことをしっかり教えていただけたのが自分の業務にすごく役立ちました。

小学校と中学校で、地域の中にある一つのものというふうに考えれば、このコミュニティ・スクールという中で、そういう連携が今もできているのか、その辺りは私が見えない部分ですけれども、広い意味で考えると、地域の中にある小学校と中学校の連携をさらに深めていくというような見方ができるのではないかなということを考えております。

二つ目の事例ですが、これは同じ教務の仕事をしている先生が理科の担当の先生で、そのとき私も理科を専門にやらせていただいていたものですから、小学

校の方では、課題解決学習、自分で課題を見つけてそれに向けていろいろ実験を考えると、いろいろなことを進めていくという教育活動がかなり言われている時代だったのですが、中学校はやはり入試があるからということで、どうしても知識注入型の授業のように私には思えました。そんな話を中学校の先生とさせていただきまして、結果的には中学校の方に私も出向かせていただいて、TTの授業を何回かさせていただいたという経験があります。これももしかしたら市内でそういうことができているのかもしれませんが、この「4. 各学校における取組事例」に書かれていない中で、地域の中にある小学校と中学校のさらなる連携が進んでいくことによって、いろいろメリットも出てくるのではないかと考えております。

○白井市長 ありがとうございます。では答弁をお願いします。

○指導担当部長 まず防災訓練につきましては、昭島市としても本当に地域の課題であるといったところから、こういったところで地域と学校が連携していくということが、ますます今後期待されていくものだというふうに考えております。

次に、小中連携がコミュニティ・スクールによってより活発になっていくということについてであります。現在、小中一貫教育は学校ブロックごとに取組を継続しておりますけれども、コミュニティ・スクールを推進する中で、地域間の連携にも資する、または教職員間の連携も深まるような、そういった取組も今後期待されてくるかというふうに考えてございます。

○白井市長 つつじが丘団地は防災訓練も今回表彰されましたね。小学校から中学校までの子どもたちも参加していて、非常に手本になるし、意気込みがあるなという感じがします。集合住宅の中で取り組んでいるところはいいけれども、各学校の中でも、温度差があるのかなというのも今後の課題だと感じております。

それでは眞如委員、お願いいたします。

○眞如委員 文科省の研修を昨年から見ていると、やはり全国各都道府県で様々です。全くできてないところ、ものすごく進んでいるところ、そういうところから昭島市を見ると、昭島市というのはものすごく地域との連携は歴史が古いといえますか、大きな良さの一つであって、学校と地域の連携というのは、これはもう宝物という言葉も当てはまるぐらいに、各学校持っているのではないかなと思います。

そういう中で、私が現役のとき、東から西の学校に異動したときに、同じ市内なのに文化が違うという言い方も少し大げさな言い方ですけども、その地域の持ち味が全然違うのですよね。そのときに、当然ながら地域の方々、それから

子どもたちも全くカラーが違うとか、持ち味が違うというのを、改めてその時思いました。

そういうことがあった中で、このコミュニティ・スクールの推進というところで、いろいろ進めようとしているわけですが、私はもう一言で言うと、先の見通しを持って進めていきたい、その願いをものすごく持っています。教育委員会からいろいろ各学校に持っていったときに、やはりそれぞれの希望とか、いろいろな地域事情もあるわけなので、そこにしっかりと目を向けて、それぞれの学校がゆくゆくはこういう形、こういう形というところをしっかりと持ちながら進めてもらえたらいいなという、その願望が一番大きいかなと思っています。

市長がよく行事のときにいらっしゃって、皆さんご存知のとおり、「昭島大好き」と、どこでもおっしゃっていて、それを子どもたちも地域の方々も、喜んで一緒に合わせてやっていますが、たまたま市長がいらっしゃらない場面で、中学生が自ら「昭島大好き」と言っているという話を校長先生から伺ったときに、ものすごく嬉しくなりました。自分が住んでいる昭島市のことを、子どもたちが好きだという表現をしようと、みんながいるところでやるということは、とても嬉しいことなので、このコミュニティ・スクールの推進の中で、自分の地域の方々顔見知りになるとか、いろいろなことを一緒にするというところで、子どもたち自身も、どんどん成長して行ってほしいなと思います。

確認といいますか、自分の学校の良さ、自分の地域の良さはというところに行ってほしいので、このコミュニティ・スクールを進めるためには、関わっている大人がしっかりとそこを見せて見通しを持って進めていったらいいなという願いを持っています。

あと、各学校の特色を活かしていったときに、メンバーが高齢者に偏らないように、メンバーが若手に上手に引き継がれるようにする。昔は若手を入れようということで、例えば学校評議員の中に卒業生を入れようとか、いろいろな取組をしていたことがあると思いますが、このコミュニティ・スクールを進める中で、学校運営協議会のあり方というのを、高齢者だけに偏らないような作戦とか、そこは先の見通しを持つためにも必要なことで、ぜひそこには配慮していただけたらいいかなと思っています。

今現在、全校実施になっているので、昭島市としては本当に3校から始まって、徐々に徐々にという感じで、地道にコツコツという、そういう進め方でやってもらえているな、ありがたいなと思っていますので、この後もぜひそういう形で進めていただけたらと思っています。急がず、学校に合わせて、やらされてやるということではなくて、こういうふうにしようとか、そういうアイデアを、教職員の方も地域の方も、まだまだそれぞれ理解不足がたくさんあるので、お互い

の立場からそれぞれを理解しながら、学びながら、このコミュニティ・スクールを進めていくと、昭島市の推進はとてもいいのではないかなと、そういう思いでおります。

○白井市長 では、指導担当部長。

○指導担当部長 いただきましたご意見については、学校にもしっかりと伝えていきながら、これまでの特色が深められるよう、学校と地域が一つ一つできる取組を積み重ねて、地域とともにあるコミュニティ・スクールを発展できるように働きかけてまいりたいというふうに思います。

また、メンバーの年齢が偏らないように、若い方にも参加できるようにということについても、実際に大学生を委員にしている学校も中学校の中にはありますので、そういった取組を紹介するなどして働きかけていきたいと考えております。以上でございます。

○白井市長 よろしくお願ひします。眞如先生ありがとうございました。

これだけ小さなエリアでもカルチャーはあるので、一つ一つのカルチャーを大切にしながら、良さも大切にしながら、他の人たちも大切にしながら、さらに昭島が大好きになってもらえれば、幸せだと思います。

では、山下教育長からお願いします。

○山下教育長 コミュニティ・スクールと一対が学校運営協議会であれば、地域学校協働活動というのは、地域学校協働本部という組織と一対をなしますが、この意味についてまだ浸透してなくて、これは学校にも、それから地域の皆さん、保護者の皆さんにも、もっともっとその意義をしっかりと伝えていかなければいけないなど。教育委員さんも同じ気持ちだと思いますけれども、改めて今日、そう感じたところでは。

これまでも、学校と地域が連携した行事が伝統的に行われてきたわけでありまして、学校地域の伝統行事や自治会ブロック別の合同防災訓練、これは瑞雲中学校もそうですけれども、拜島の方でもやっております、中学校の生徒が協力をしたり、学校の教員が協力をしたりというようなことも今までやってきたわけでありまして。

地域登下校の見守り活動や、シルバー人材センターを窓口とした学校の早朝管理、それから早朝の見守り事業をはじめ、場合によっては道徳授業地区公開講座や学芸発表会、それから運動会や体育大会などにも、学校に協力をしてきた歴史があるわけでありまして。

元々の素地として、眞如委員もおっしゃっていますが、地域学校協働活動が目指しているところ、今まで学校と地域の関わりはイコールとして捉えておりました、それを皆さんがこう理解していただければありがたいというふうに思っています。

全く新しいことを始めるということではなくて、これまでの学校と地域の繋がりを継続しつつ、新たな視点を入れた協働活動も取り入れながら展開していくという趣旨であります。今まで自治会を中心とした世話役さんが、PTAやウィズユースなどと協力をして、学校と子どもたちの応援団として学校を支えてきていただきました。そうした地域の世話役さんの活動を、今度は地域コーディネーターとして、正式に地域学校協働活動のまとめ役として、選任して報酬をお支払いする中で、学校と地域の橋渡しや新たな視点を入れての地域学校協働活動を見出していく役割を担っていただくということで、メリハリをつけていくという考え方です。

学校にも地域にもよく理解していただいて進めていきたいというふうに考えておりますので、一生懸命PRしていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○白井市長 教育委員の皆様のご意見をよく把握しながら、コミュニティとはなんぞやというところ、要は何でも作ってみればいいというのではなくて、推進していればいいというのではなくて、みんなが楽しくて豊かに、学校っていいなと思えるようなコミュニティ・スクールを作ってください。

格好だけつけて、地域の方々に文句を言われて、先生方が辟易するようなことのないように、ともに地域力を高めて、学校にできないことは自分たちがやるというぐらい地域力を高めて、学校教育、そして地域と連携して、私も頑張りますので、三位一体となることができるような組織として作っていただくとありがたいと思っております。貴重なご意見をいただきましたので、担当部署でよろしくお願いいたします。

それでは次に進めさせていただきます。「『学校の働き方改革の推進に向けた実行プログラム』の策定に向けて」の報告をお願いいたします。

○指導担当部長 その他の「『学校の働き方改革の推進に向けた実行プログラム』の策定に向けて」について報告をさせていただきます。資料2をご覧ください。

「1 策定の背景」の「(1) これまでの経緯と現状」であります。市教育委員会は、平成31年3月に「学校における働き方改革推進プラン」を策定し、取組を実施してまいりました。その取組の結果であります。グラフをご覧ください。昭島市立学校教員の時間外在校等時間、1か月当たりの年間平均のグラフで

ありますが、傾向分析といたしましては、小・中学校の平均時間は、令和元年度から令和2年度までは、コロナ禍において減少傾向でありましたが、令和3年度には増加し、その後、令和6年度まで年々減少傾向であります。

また、時間外在校等時間45時間未満の教員についても同様の傾向にあり、令和3年度以降は改善傾向にあるというふうに考えておりますが、依然として改善が求められる状況であります。国の指針では、この時間外在校等時間の平均を30時間以下にすること、また時間外在校等時間45時間未満の教職員を100%にするといったことを目標として挙げております。

次に、「(2) 学校を取り巻く状況」であります。昨今、教員の安定的確保が課題となっており、また教育DXやグローバル化といった新たな教育課題への対応や、いじめや不登校、その他の様々な困難を抱える児童生徒に対するきめ細かな対応を行うことができるよう、働き方改革の推進が重要となっております。

次に「(3) 国や都の動向」についてであります。国は令和7年6月に、いわゆる給特法を改正し、服務監督をする教育委員会が、国が定める指針に即して「業務量管理・健康確保措置実施計画」の策定・公表、計画の実施状況の公表を義務付けました。本実行プログラムは、国が定める指針に基づき市教育委員会における「業務量管理・健康確保措置実施計画」として策定するものでございます。また東京都が策定しております「都実行プログラム」を参考にしつつ、市の実態や取組状況を踏まえて、今後、本実行プログラムを策定してまいります。

次に「2 策定の考え方」の「(1) 目的」についてであります。次代を担う子どもたちの豊かな学びと健やかな成長に向けて、教員の心身の健康保持の実現と、教員が誇りとやりがいを持って職務に従事できる環境を整備することにより、学校教育の質の維持向上を図ることとしております。

次に「(2) 位置付け」であります。給特法第8条に基づく、市立学校教員の服務監督者である市教育委員会の実施計画となります。

次に「(3) 計画期間」でございます。令和8年度から令和11年度までの4年間となります。

最後になります「3 今後のスケジュール」についてであります。現在、庁内で鋭意検討を進めており、今後、学校からの意見等を把握する中で、令和8年4月から本実行プログラムを施行できるよう策定してまいります。

また、策定した本実行プログラムにつきましては、国が定める指針において、総合教育会議への報告が義務付けられているため、令和8年度中に、総合教育会議において、策定した実行プログラムについて報告をさせていただき、令和9年度以降の総合教育会議において、実行プログラムの実施状況について報告する予定でございます。

以上、簡略な説明ではございますがよろしくお願いたします。

○白井市長 ありがとうございます。「学校の働き方改革の推進に向けた実行プログラム」の策定について委員の皆さんから何かあれば。また、今担当部長からありましたけれど、令和 8 年 4 月までに本実行プログラムの策定をし、令和 8 年度中の総合教育会議において、本実行プログラムについては報告を受けて、それに対して質疑応答すると。また令和 9 年度以降については総合教育会議において本実行プログラムの実施状況について報告を受けるということですが、この内容で進めさせていただいてよろしいですか。

では、総合教育会議の委員の皆さんから、策定に向けて、しっかりとした実行プログラムを策定しながら、令和 8 年 4 月に本実行プログラムを策定して、そして令和 8 年度から実行して、令和 9 年度以降に教育総合会議で判断していくということですのでよろしくお願いします。他に何かありますか。ないようですので、次をお願いしたいと思います。

○企画政策課長 次回の会議につきましては、本日の議題にあった実行プログラムを含めてですけれども、議題を設定していただき、日程を調整させていただきたいと考えています。緊急の場合はこの限りではありませんので、その点をご承知おきいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○白井市長 ありがとうございます。今、企画政策課長の方から話がありましたけれど、まさにこれは市長部局と教育委員会部局の合体で頑張っていくという取組ですので、よろしくお願いいたしますというふうに思います。

最後に全体を通して、皆さんの方からご意見等ございましたら、お願いしたいと思います。よろしいですか。

本日の議題は「コミュニティ・スクールの推進に向けて」ということで、教育委員会の皆さんと有意義な議論をさせていただきました。絵に描いた餅にならないように実施していくというのは、常に実行ですから、結果が見えないと駄目です。コミュニティ・スクールの推進に向けて、どのような成果があったのか、それと学校の教員の負担が軽くなったのかを、しっかりと把握しながら、この学校の地区にいて良かったねと言えるような学校作りを、さらに教育委員会として進めていただければありがたいというふうに思います。

それではこれをもちまして、令和 7 年度第 1 回昭島市総合教育会議を閉会させていただきます。皆さんご協力ありがとうございました。教育委員会と市の教育行政が連携をしていることが大事ですから、皆さんよろしくお願いします。本日はありがとうございました。

署 名

.....